

学校法人船田教育会  
作新学院大学女子短期大学部  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 作新学院大学女子短期大学部 の概要

設置者	学校法人 船田教育会
理事長名	船田 元
学長名	太田 周
ALO	赤羽 薫
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	栃木県宇都宮市竹下町908番地

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		100
	合計	100

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

作新学院大学女子短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 21 年 6 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、船田兵吾が創立した私塾下野英学校の精神を受け継ぎ昭和 42 年に開学した「作新学院女子短期大学」を母体とし、幼児教育科入学定員 100 名の短期大学として今日に至っている。当該短期大学名は中国の古典「大学」中の「作新民」に由来し、自己を常に「新たにする民」、つまり自分の力で新しい知識や問題解決の方法を習得する人材を育てることを建学の精神としている。これを受けた教育理念の「自学・自習、自主・自律」に立脚して教育目標が定められ、建学の精神、教育理念を共有する機会も定着している。

教育課程は、取得免許・資格の必修科目を中心に体系的に編成され、専任教員を主要科目に配置し、短期大学教育の水準を十分に維持している。学生による授業評価と「授業満足度調査」を実施し、「作新学院女子短期大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）勉強会」を開催している。

在籍する学生のほとんどが幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の二つを取得し卒業していること、保育専門職への就職率も高率を維持していることなど、学科の教育目標を十分に達成している。

近年の保育専門職への高い就職率や少ない退学者数は、クラス担任制のきめ細かな指導・支援、就職課やキャンパスライフ支援室の個別支援、学科全体の充実した支援体制によるものと判断する。多忙な 2 年間の学生生活の中、サークル活動やボランティア活動が盛んに行われ、実績をあげている。

校舎や施設の耐震性や安全性が確保され、地域に開かれた多目的ホールや図書館のほか、保育者養成の実習・演習室が充実している。専任教員の配置、年齢等のバランスもとれており、公開講座及び地方自治体の審議委員などの社会的な活動や、専門性を生かした地域貢献活動、系列校等との高大連携事業も積極的に実施している。

研究業績は一般に公開され一定の成果もあげており、更なる研究活動の奨励と一層の促進を図るために併設大学及び短期大学の競争的研究費「教育研究開発改善経費」が新設され、短期大学からもこれに採択されている。また、教員の研究にかかわる研

研究室、機器・備品等の教育研究のための環境は整備されている。研究活動に必要な時間は、就業規則に基づき、授業や学生指導等と調整を図りながら研修日、研究時間を設定し確保している。

理事長と学長は共に大学運営にリーダーシップを発揮し、常勤理事会、理事会や評議員会、教授会は適切に運営されている。また各種委員会や事務組織は短期大学の運営に支障のない組織が整備されている。予算計画や事業計画は適正に執行され、会計処理も適切に行われている。当該短期大学の収容定員は確保されている。ここ数年の学校法人の財務状況は、短期大学部門及び学校法人全体において消費支出超過傾向にある。平成 21 年度から着手した第 3 次財政再建計画が進行中であり、財務体質の健全化を目指して更なる努力を期待したい。

自己点検評価活動の重要性に対する認識は十分であり、毎年、自己点検・評価報告書を作成しウェブサイトで公開している。平成 21 年度には「作新学院大学女子短期大学部自己点検・評価委員会規程」を新たに策定して、自己点検・評価に真剣に取り組む、規程、組織なども整備している。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育理念の「自学・自習、自主・自律」が、カリキュラム・ポリシーに示された「学生参加型」の授業の推進や、学生とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢として重視され、サークル活動やボランティア活動等の学生の学園生活全般に生かされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「作新学院女子短期大学部 FD 勉強会」を毎月定期的に開催し、授業運営に関する教員間の問題の共有や工夫ある取り組みの紹介、学生による授業評価の結果の活

用方法の検討等、授業改善に意欲的に取り組んでいる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 系列校である作新学院高等学校の幼児教育科志望の「作短コース」の生徒を対象に、週 2 時限、年間 13～15 回にわたり専任教員がリレー形式で講義を行い、入学前の準備学習と保育者養成への動機付けを積極的に行っている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生との日常的なコミュニケーションの積み重ねを重視する方針の下、オフィス・アワーやクラス担任による学生面談、各種の実習指導のほか授業の合間やサークル活動等をつうじて、きめ細かな意思疎通を図ることでの確かな学生指導やアドバイスが行われ、それが少ない退学者数に結びついている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 保育者養成教育の多忙な 2 年間の中にあって、様々なサークル活動に所属し参加する学生の比率が非常に高く、教職員の適切なサポートの下で、目覚ましい活動実績を残している。

### 評価領域Ⅵ 社会的活動

- 平成 19 年度以来、近隣の幼稚園や保育所、小学校と連携を取りながら「うつのみや百景と風景を描く子ども絵画コンクール」を開催し、その中でワークショップに学生も参加するなど、学科の専門性を生かした地域貢献活動を展開している。

### 評価領域Ⅶ 管理運営

- スタッフ・ディベロップメント (SD) 研修の方策として平成 15 年度より「目標管理制度」を導入するとともに、学内外の職員向け SD 研修会に積極的に参加する等、職員の業務に対する問題意識、改善意欲の醸成を図っており、職員の資質及び能力向上に役立てている。

### 評価領域Ⅷ 財務

- 平成 21 年度から地域連携事業として、地域住民の総合防災訓練としてキャンパスを提供するとともに、学生と教職員も参加し協同して避難訓練が行われており、危機管理上非常に有効な手段であり、防災に対する意識の高さがうかがえる。

## (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

## 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「教養科目」の必要単位数の設定や、それに応じた選択科目の分野や開講科目数について、現代的教養の確保や学生の選択履修の幅をより広げる観点から検討を進め、教養教育の一層の充実を図られたい。
- シラバスの記載内容では、特に各科目の学習の到達度や成績評価の方法の記述について不統一がみられるので、科目担当者間で共通理解を図られたい。

## 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 平成 22 年度の入学定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。
- 担当する授業科目や学外での実習指導、学生への個別支援の負担が年々増しつつあるので、専任教員の教育、研究の更なる充実を図るため、サポート体制を検討されたい。

## 評価領域Ⅳ 財務

- 学校法人全体及び短期大学部門とも支出超過が続いているので、収支バランスの改善が必要である。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学名は、中国の古典「大学」の一節にある「作新民」から引用したものであるが、自己を常に「新たにする民」、つまり自分の力で新しい知識や問題解決の方法を習得する能力を身につけた人材を育てることと解釈し、これを建学の精神としている。また、教育理念の「自学・自習、自主・自律」は、自ら学び自主的に自らを律して行動できる人材を育成することを目指し、設置されている幼児教育科の教育目標においても、この建学の精神や教育理念に立脚した教育目標が明確に定められている。現代的なニーズに応じた当該短期大学のあり方を検討すべく、平成 19 年度には理事会を中心に建学の精神の解釈の見直しを、21 年度には教授会で教育理念と教育目標の見直しを図った。学内の諸行事を通じて理事長、学長が講話の中で建学の精神を伝える一方で、「自学・自習、自主・自律」の教育理念は、そのカリキュラム・ポリシーや日常的な学生支援等に生かされており、建学の精神や教育理念を共有し実践する機会が定着している。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

幼児教育科の教育課程は、建学の精神や教育理念を踏まえた保育者養成教育を主軸とし、専門教育科目は取得免許・資格の必修科目を中心に体系的に編成されている。専任教員を主要科目に配置し、短期大学教育の水準を十分に維持する内容となっている。また、シラバスは必要条件を備え、履修選択に当たっても十分に活用されており、今後も一層の内容の充実が期待される。学生による授業評価は、各教員が担当する科目のうち作新学院大学・同女子短期大学部 FD・SD 委員会が抽出した科目で実施して

いる。教職員による相互授業参観、併設大学と共催の FD 研修会への参加のほか、「作新学院大学女子短期大学部 FD 勉強会」を開催し、保育者養成教育の改善、充実に向けて学科をあげて組織的な取り組みを開始している。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育面では、専任教員の配置、年齢等のバランスもとれており、クラス担任制による学生指導等に熱心に取り組んでいる。また高大連携事業として、系列校への年間を通じての講義や県内の各高等学校への「出張授業」を積極的に実施している。

校舎や施設の耐震性に問題はなく、アスベスト調査も実施しており、その安全性が確保されている。また、車椅子に対応したスロープや身障者用トイレの設置など、障がい者への対応を計画的に進めている。併設する大学と共用ではあるが、授業用コンピュータ室や学生がパソコンを自由に利用できる情報センター等の情報処理施設、地域に開かれた多目的ホール等、充実した施設・設備が効率よく活用され、保育者養成の実習・演習室の整備と併せ短期大学教育の活性化につながっている。図書館も蔵書整理やデータベース化を進め、広報誌による情報発信を積極的に行っている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

在籍する学生のほとんどが幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の二つを取得し卒業していること、保育専門職への就職率も高率を維持していることなど、学科の教育目標を十分に達成している。また、少ない退学者数は、学生指導・支援への教職員の日頃の熱意や、教育目標の達成のための取り組みが十分に行われている成果と判断できる。学生の満足度は、個別科目の授業評価に加え、平成 21 年度より教育課程全般の満足度を問う「授業満足度調査」を本格的に実施し、個別評価と併せて全体の傾向を把握、分析している。

幅広い卒業生を対象とした「学生時代についてのアンケート」を実施し、それを保育者養成の改善に生かす努力を継続している。また、実習巡回時や保育所長懇談会、同窓会役員と教職員や学生との懇親会等を通じて様々な意見聴取に努め、卒業生に対する評価と現状の課題を把握しようとしている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学志願者に対しては、短期大学案内やウェブサイトにより、建学の精神、教育理念、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、学生生活支援方針等が周知するように配慮されている。また、入学予定者には入学前オリエンテーションを実施し、入学直後の学内オリエンテーションや 2 年生が企画・参加する学外でのオリエンテーション等を通じて、適切な情報提供と支援を行っている。専門教育や各種の学外実習で多忙な 2 年間ではあるが、サークル活動が極めて盛んに行われ、また、学生が充実した学生生活を送ることができるよう、クラス担任とキャンパスライフ支援室が中

心となり、学科全体できめ細かな指導体制をとっている。進路支援に関しては、保育専門職への就職に向けた情報提供と綿密な指導が行われており、就職率がほぼ 100 パーセントという実績を残している。

#### 評価領域Ⅵ 研究

すべての専任教員が、公開講座や地方自治体の審議委員等、何らかの社会的な活動に携わっており、「地域社会に開かれた存在」、「地域に貢献し、地域をリードする存在になる」という大学全体の方針に合致している。

研究業績は一般に公開され一定の成果もあげてきたが、研究活動の奨励と今後一層の促進を図るために併設大学及び短期大学の競争的研究費「教育研究開発改善経費」が新設され、短期大学もこれに採択されている。研究費は個人研究費と共同研究費があり、それぞれ規程に基づいて適正に執行されている。また、教員の研究にかかわる研究室、機器・備品等の教育研究のための環境は整備されている。研究活動に必要な時間は、就業規則に基づき、授業や学生指導等と調整を図りながら研修日、研究時間を設定し確保している。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

生涯学習活動として、平成 19 年度の短期大学独自の公開講座に引き続き、20 年度、21 年度に併設大学との共同企画として公開講座を実施している。また、「大学コンソーシアムとちぎ」を通じた他の大学及び短期大学との単位互換制度がある。このほか地域連携支援センターの季刊誌「コラボとちぎ」の発行、「うつのみや百景と風景を描く子ども絵画コンクール」等、地域への社会貢献として実績を残している。

学生の 90 パーセント以上が県内出身ということもあり、地域社会に密着した短期大学として、また、地域社会の一員として社会的活動に参加することを重視している。学生サークルによるボランティア活動が盛んであり、これを将来保育者として活躍する学生の学びの機会としている。学生のボランティア活動を更にサポートする体制として「幼児教育科ボランティアセンター」が発足し、学生への情報の提供に努めている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は常勤理事会、評議員会、理事会という大学運営の意思決定の場において、短期大学の重要事項の審議・決定に深く関与しながらリーダーシップを発揮している。理事会や評議員会の構成は適正であり、それぞれの会議も定期的開催され、寄附行為に基づいた案件を審議している。監事はその責任を十分に果たしており、学校法人全体の管理と運営は適切と判断される。以上の運営組織のほかに、理事長と事務局の定例会議の場として理事長・局次長会が設置され、短期大学の運営に機能的な役割を果たしている。

学長は各学科や各専門委員会に対して明確な教育方針、運営方針を伝え、教学の最高責任者としてのリーダーシップを十分に発揮している。教授会は定期的開催され、教授会規程に基づき適切に審議が行われ、各種の専門委員会も機能している。事務組織は、短期大学の運営に支障なく整備されている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

予算計画や事業計画は適正に執行され、経理規程等により適切な会計処理が行われている。公認会計士による監査も定期的に行われ、特に重要な指摘事項はない。

過去3ヶ年の学校法人の財務は、平成21年度に始まる第3次財政再建計画に基づき運営されている。設置校別に帰属収支均衡目標を設定し、短期大学もこれに沿った財政・事業計画を策定している。学校法人全体の財務状況は、短期大学部門及び学校法人全体において消費支出超過傾向にある。短期大学は入試改革等により入学者数が確保され、若干の上向き傾向にあることから、財務体質の健全化を目指して更なる努力を期待したい。

施設設備の管理は、台帳類を含め適切に整備されている。地域と連携した防犯・防災対策のほか、コンピュータのセキュリティ対策や省エネルギー対策等も積極的に推進している。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

毎年、自己点検・評価報告書を作成しウェブサイトで公開しており、自己点検評価活動の重要性に対する認識は十分である。平成21年度には、短期大学基準協会の評価項目に準拠した「作新学院大学女子短期大学部自己点検・評価委員会規程」を新たに策定して、自己点検・評価に真剣に取り組み、規程、組織なども整備してきた。そして、自己点検・評価委員会を中心とした評価活動の全学的な体制を構築している。

これまで他の短期大学との相互評価は実施しておらず、相互評価や外部評価の実施組織、規程も未整備ではあるが、今回の第三者評価に向けた準備の中で相互評価、外部評価の重要性を十分に認識し、それらの実施に向けた学内体制を今後整備する予定としている。